



連載

みんなで盛り上げよう！

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

未来につながる【東京2020応援プログラム】



～全国から東京2020大会を盛り上げよう～



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）の盛り上げ、大会後のレガシー創出を目指し、2020年に向けてオールジャパンで取り組む参加型のプログラムである「東京2020参画プログラム」（以下「参画プログラム」という。）。2016年10月から開始された同プログラムは、図1のとおり、「東京2020公認プログラム」（以下「公認プログラム」という。）と「東京2020応援プログラム」（以下「応援プログラム」という。）に分けられ、2017年7月からは、「応援プログラム」の対象を全国の非営利団体等に拡大し、全国の総合型クラブも、「応援プログラム」に申請できるようになりました。

そこで、今回は、同プログラムを所管する公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）企画財務局アクション&レガシー課スポーツ・健康チームの皆様から、全国の総合型クラブが申請できる【応援プログラム】の概要や魅力、活用方法についてお話を伺いました！

<2つのプログラム>



図1【出典：東京2020参画プログラムについて（2017年1月：組織委員会）】

●参画プログラムとは

東京2020大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン
「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト
「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

この大会ビジョンとコンセプトを基に、日本国民の方々が、東京2020大会に参画（アクション）し、そのアクションの成果を未来につなげていく（レガシー）ことを目指し「アクション&レガシープラン2016」を策定しました。そして、このプランを達成するために、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会に向けた参画・機運醸成等に向けた「アクション」を実施できる仕組みが「参画プログラム」です。

「参画プログラム」には「公認プログラム」と「応援プログラム」があり、地域の非営利団体等を対象とし、より多くの方々が参画できることを目指すものが「応援プログラム」です。

●「応援プログラム」として認証されることで、クラブ・地域に様々な効果を創出できる

例えば、総合型クラブで「健康寿命の延伸を目的とした健康運動教室」を組織委員会に申請し、「応援プログラム」として認証された場合、どのようなことができるのかを紹介します。※1

「応援プログラム」として認証された事業は、図2の東京2020応援マークを使用することや、「オリンピック・パラリンピック」等の文言を使用することができます（一部使用制限あり）。※2
つまり、「応援プログラム」として認証されることで、東京2020大会とのつながりができ、地域の方々に対し、クラブの存在やクラブの事業をPRできる他、東京2020大会の機運醸成に貢献したという実績となります。また、地域の複数のクラブや自治体等の他団体と連携したイベント等を「応援プログラム」として実施することで、地域のつながりの強化や地域の未来を共に考えるきっかけづくりとなる可能性もあります。

もしかすると、クラブの関係者や会員さんの中には、「オリンピック・パラリンピックに関わりたけれど、地方だから難しい・・・」等とされている方もいらっしゃるかと思います。そのような方が、「応援プログラム」として認証されたクラブの教室やイベントに参加したり、ボランティアとして活動したりすれば、たとえ東京に行かずとも、東京2020大会に参画したと言えるのではないのでしょうか。

※1 応援プログラムの具体的な申請方法については、[コチラ](#)

*日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会加入クラブにおいて、日本スポーツ協会を通じた「東京2020応援プログラム申請前手続き」を希望した団体に対しては、後日、都道府県総合型クラブ連絡協議会を通じて申請方法をご案内いたします。

※2 応援マーク等の使用に係る留意事項等については、[コチラ](#)



図2【東京2020応援マーク】

●「応援プログラム」に申請できる取組は、スポーツに限らない

「応援プログラム」に申請できる取組は、スポーツに限られません。図1の8つの分野にてそれぞれ設定されているレガシーコンセプト※3のいずれかに合致する取組であれば認証しております。例えば、公益財団法人横浜市体育協会は、「応援プログラム」として、図3のとおり東京2020大会開催1000日前に千羽鶴を作るというイベントを実施しました。これは、1964年の東京オリンピックの競技会場となった横浜文化体育館において、大きな「2020」年モニュメントを作り、日本の文化で世界に向けて東京開催を盛り上げるというコンセプトのもと実施しており、8つの分野の中の「文化」分野にて「応援プログラム」として認証されています。

また、「応援プログラム」として、「障がい者スポーツの体験会」や「障がい者スポーツの観戦ツアー」等を実施している団体もあります。

既に全国各地で多くの団体等が様々な「応援プログラム」を実施しております。ぜひ下記URLから全国の「応援プログラム」の事例をご覧ください、「応援プログラム」を活用するうえでの参考としてください。

★全国の参画プログラムについては、[コチラ](#)

※3 8つの分野におけるレガシーコンセプト等については、[コチラ](#)



図3【応援プログラムに参画した方々が作成した鶴を、横浜文化体育館に集め、フロアに「2020」の数字を描いた】(提供：公益財団法人横浜市体育協会)

★その他プログラムのご紹介★

「公認プログラム」～都市鉱山からつくる！みんなのプロジェクト～

東京2020大会のメダル約5000個を都市鉱山である携帯電話など使用済み小型家電から制作する大会史上初めての試みとなるプロジェクトです。www.toshi-kouzan.jp/

「特別プログラム」2020応援プログラム(祭り)

日本の伝統文化である祭りを通して、東京2020大会の機運醸成・盛り上げにつなげるための特別プログラムとして東京2020応援プログラム(祭り)を作りました。特定の企業や商品をPRする目的ではなく提供される飲食・物販(屋台等)は可能となっており、また「祭り」用の特別マークを用意しています。あなたの街のお祭りを応援プログラム(祭り)にぜひ申請してください。

詳しくは組織委員会HPの「祭り」ガイドライン(2018年度版)をご確認ください。

https://participation.tokyo2020.jp/jp/data/matsuri_guideline_201803.pdf

●クラブの既存の取組が「応援プログラム」として申請できる

総合型クラブは、特に「スポーツ・健康」分野にて、既に実施しているスポーツ・健康教室等を「応援プログラム」に申請することができます。

もしかすると、「応援プログラム」に申請するために、新規事業を考えようとする方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、例えば「スポーツ・健康」分野のレガシーコンセプトの一つとして、【誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現】があり、対象となる取組内容には、「スポーツ参画人口の拡大とスポーツ関連産業の発展」や「スポーツ（運動）の力による健康づくりの推進」等が掲げられています。

つまり、多くのクラブが普段から実施している教室やイベント等が、まさに「応援プログラム」に申請できるのです。

また、昨年度の日本スポーツ協会メールマガジンの連載企画でも取り上げられている「英会話教室」や「ゴミ拾い活動」は、「教育」や「持続可能性」の分野にて「応援プログラム」に申請いただけます。

応援プログラムとして考えられる取組例

競技体験会		ボランティア養成			
クラブ独自の競技体験会開催(1日疑似体験)		主催イベント等におけるボランティア養成(英会話等)の講習会等を実施			
参加国の応援		合宿国の応援・交流		地域の文化の発信	
応援メッセージの作成 (クラブ会員一人一国応援運動)		クラブイベントへの招聘		地域独自の文化を全国・海外に伝える	
トップアスリート(オリンピック等)との 交流事業			次世代アスリートの 発掘・育成事業		
主催イベント等におけるアスリートの派遣・交流			交流大会やイベント、体験会等を通じた発掘・育成		
障がい者スポーツの導入		障がい者スポーツ指導者養成		パラリンピアンとの交流事業	
障がい者団体等との連携事業 (健常者と障がい者の交流)		障がい者スポーツに係る講習会の実施		パラリンピアン派遣による教室、イベント等の実施	

●総合型クラブの日々の取組がレガシーになる

東京2020大会を契機に、色々な形でスポーツに携わりたいと考える方々が増えると思います。例えば、ボッチャの試合をテレビで見て、ボッチャをやってみたいと思う方がいたときに、地域でボッチャができる場所があることは素晴らしいことではないでしょうか。

また、スポーツに限らず、例えば、「ゴミ拾い活動」は、地域で今すぐにでも取り組める活動です。東京2020大会をきっかけに「ゴミ拾い活動」を実施し、その取組を大会後も継続的に実施することでレガシーとなります。

総合型クラブは、それぞれ様々な特色を持つことから、8つの分野における「スポーツ・健康」のみならず、「文化」「教育」「持続可能性」等、多くの関わりを持てるという強みがあります。全国の総合型クラブが「応援プログラム」に申請することにより、東京2020大会への機運醸成への大きなムーブメントとなるとともに、総合型クラブの存在が、大会コンセプトにある「未来への継承」につながることを期待しております。

●「参画プログラム」の今後の展望

「参画プログラム」は、「応援プログラム」「公認プログラム」を合わせ、現在、1400団体にて4万件の「プログラム」が実施されており、全国で3000万人を超える方々が参加するプログラムとなっています。

今年は大会マスコットの正式発表、大会ボランティア募集、チケット販売開始、2年前・500日前イベント等、大会に向けて多くの行事を予定しています。

日本全国の皆さまの多くの参画により東京2020年大会へのワクワク感を一緒に作りあげていきましょう！ぜひオールジャパンでの大会成功に向けご協力をお願いします。



今回お話を伺った組織委員会の方々
写真左から/斎藤秀美氏、佐々木啓二氏、藤田善三氏、村田清顕氏